



## 名城病院看護部長に就任して

名城病院看護部長 和田 一枝

縁あって、名城病院で勤務させていただくことになり、3年目を迎えた今年の4月1日付で看護部長を拝名いたしました。この2年間は、病棟師長として名城病院の看護実践の場に携わってきました。スタッフと共に、患者さんの問題解決のために名城病院にどのような機能があるかを知る貴重な2年間であったと思います。患者さんやご家族からは、辛口言葉も頂きましたが、看護師の優しさとおたたかさを多くの方から感謝の言葉とともに褒め頂き、これは看護部の大切な財産であると感じています。昨年の50周年記念

式典では、歴代の諸先輩方から直接お話を伺う機会が持て、さらに名城病院の歩みについて知ることができました。そして、大勢の方々から名城病院に対する期待の言葉を頂いたことを思うと、重責に身の引き締まる思いです。

現在当院は、3度目の病院機能評価受審に向けて準備を進めているところです。看護に期待される項目の多さからも、医療の質を問われた時の看護師の役割の重要性を再認識しながらの作業です。私にとっては最初の試練となりますが、真摯に取り組む師長達の姿には頼もしさを感じています。もち

ろん看護部だけでなく、医師をはじめ全ての職種が1歩先をめざして取り組んでいますので、確かな実りが得られることを確信しています。

今年の1月から、地域連携室と新設の患者相談窓口を経験豊富な看護師を配置したことも、新しい取り組みのひとつです。患者相談窓口では、患者さんからの様々なご相談を一括して受け、担当者迅速に引き継ぐことができるようになりました。また、地域連携室への看護師配置は、当院の地域連携強化策のひとつであり、患者さんの安心につなげていきたいと考えています。

誰からも親しまれ、信頼され、選ばれる病院をめざして、力を尽くしてまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



### 名城病院の理念

1. より良い医療をより安全に提供することは、私たちの使命です。
2. 私たち職員は、プロ意識を持ってそれぞれの技術とサービスを向上させ、医療の質と安全管理に最大限の努力を払います。
3. 私たちは、患者さんの権利を尊重し、最もふさわしい、納得の行く医療を行います。
4. 私たちは、地域社会と協力して人々の健康と福祉の向上に奉仕します。
5. 私たちは、病む人には安らぎと満足を、職員には働きやすさと誇りの得られる病院をめざします。

以上のとおり、病院の果たすべき使命とあるべき姿を認識し、皆さんに「親しまれ、信頼され、選ばれる病院」であるように、常に努力します。



### 患者さんの権利

名城病院は患者の皆さんの権利を尊重します。

1. 安心して最善の医療を受ける権利を尊重します。  
(適切な医療を受ける権利)
2. 治療に関する情報を知り、説明を受ける権利を尊重します。  
(知る権利)
3. 治療に関する方法を自己の意思で決定する権利を尊重します。  
(自己決定の権利)
4. 個人の情報が保護される権利を尊重します。  
(プライバシーが保護される権利)

これらの権利を守り発展させるため、患者の皆さんは私たちと協力し、医療に参加していただきます。  
(医療に協力する責任)

## ヘリコバクター・ピロリ菌の治療による胃がんの予防

胃の中に住み着いているヘリコバクター・ピロリ菌は、1982年に発見されました。ピロリ菌の感染は慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃がんなどを引き起こすことがわかってきました。ピロリ菌は日本人の約半数が感染しています。特に60歳以上では90%近い感染率と言われています。かつて胃がんは日本の国民病と言われてきましたが、ピロリ菌感染が蔓延していることが原因だったのです。

本年2月から胃がん予防の目的で、ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌治療が健康保険で可能となりました。これにより、除菌が成功すると胃がんになる危険を約1/3にするとされています。

治療方法は一週間朝夕2回5種類ずつの薬を内服します。忘れずに続けて内服することが大事です。治療成功率は約80%です。一回目の治療で除菌できなかった場合は違う薬の組み合わせで治療します。

除菌治療の問題点としてはペニシリンのアレルギーなどがあります。

除菌成功後の問題点としては胃食道逆流症(胸焼け)や肥満などが知られており注意が必要です。再感染率は年0~2%と考えられています。

今回治療の対象になるのは、ヘリコバクター・ピロリ菌感染胃炎です。「内視鏡検査で慢性胃炎」があり、「ピロリ菌の感染が血液や組織などで確認された方」です。ですから、必ず内視鏡検査が必要となります。当院では最新のハイビジョン内視鏡を用いて診断にあたります。ご希望の方には静脈麻酔薬を使つての検査を行いますのでお申し出下さい。

除菌すると胃がんができる可能性は少なくなります。胃がんにならなくなるわけではありませんので、除菌後も定期的な内視鏡検査は必要です。

## 9階病棟紹介

9階病棟は、消化器内科・腎臓内科・皮膚科の混合病棟です。様々な病態の患者さんが入院しておられますが、近年ではどの科においても、糖尿病を合併された患者さんが増加傾向にあります。

当病棟には、「日本糖尿病療養指導士」「フットケア」の資格を有するスタッフがあります。

そのスタッフを中心に、スタッフへ糖尿病患者指導の教育・フットケアの方法教育を行い、少しずつ成果が出始めてきました。特に、糖尿病患者の足壊疽については入院時にチェックシートを用いて評価し、腎臓内科医師・皮膚科医師との連携の元、治療計画を立てケアを実践しています。それにより、悪化することなく軽快傾向にあり



ます。

また、糖尿病教育入院の患者さんについては、糖尿病指導パンフレットを用いて指導を行い、ビデオ学習・食事療法・運動療法を行い、理解を深められ実践していただけるよう関わっています。

現在問題となっているのは、糖尿病を抱えた患者さんが高齢となり自己管理が困難となってきたことです。特にインシュリン療法を行っている患者さんについては、目が見えなかつた

り、認知力の低下により自己注射をすることが困難で、リスクを伴います。

そのようなケースにおいては、入院中から地域との連携を図りどのような社会的支援が受けられるのかが課題になってきます。病診連携室・医療福祉相談室との協力のもと、地域のかかりつけ医・ケアマネージャー・訪問看護師との連携を図り、患者さんにとってよりよい支援ができるよう今後の目標として、努力したいと思っております。



新任  
ドクター  
紹介

よろしくおねがいいたします



## 消化器内科 医長

水谷 太郎 みずたに たろう

4月1日付けで消化器内科に着任となりました水谷太郎です。赴任前は名古屋大学に勤務しておりましたが、それ以前は名城病院勤務でしたので縁あって再びお世話になることになりました。消化器内科を中心に幅広く質の高い医療を患者さんの視点に立って提供していけたらと考えています。どうぞ宜しくお願いします。



## 脳神経外科

大井 祥恵 おおい さちえ

4月より、脳外科に赴任しました大井と申します。脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害）の予防の第一は、血圧管理です。家庭での血圧測定をお勧めします。糖尿病、喫煙、多量の飲酒、高脂血症といった危険因子の管理も大切です。神経症状を自覚したら、すぐ受診してください。当科では、頭部外傷、脳腫瘍の診療も行っています。お気軽にお声をかけて下さい。



## 整形外科

瀧村 浩介 たきむら こうすけ

このたび、名城病院で勤務させて頂く事になりました整形外科の瀧村です。今までは北海道の病院に勤務していました。名古屋市は初めての勤務地であり、これから一刻も早く慣れ、皆様の治療のお役に立てる様に頑張っていきますので、何卒宜しくお願いします。



## 皮膚科

馬場 義博 ばば よしひろ

このたび、4月より赴任となりました皮膚科の馬場義博と申します。以前は名古屋第一赤十字病院で勤務しておりました。患者さんに満足していただけるよう、丁寧な診療を心掛けて頑張っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



## 循環器科

原 昭壽 はら あきとし

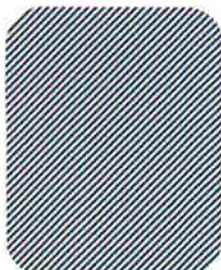
本年度より循環器科に赴任となりました、原昭壽と申します。狭心症、心筋梗塞、不整脈を始めとする心疾患の治療を中心に患者さんの生活の質の向上にお役に立ちたいと考えております。宜しくお願いします。



## 麻酔科 専修医

平野 藍 ひらの あい

このたび、4月より麻酔科専修医として働かせて頂きます平野藍と申します。患者さんのお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

研修  
医  
紹介大西 孝昌  
おおにし たかまさ木本 慧  
きもと さとし野浪 大介  
のなみ だいすけ山田 隼  
やまだ はやと

病  
診  
連  
携  
室

心臓血管外科部長兼病診連携部長  
村上 文彦

## 名城ネットについてのご案内

今回、国家公務員共済組合連合会本部より予算を頂き糖尿病連携システムを構築致しました。その目的は糖尿病のみにこだわらず当院の地域における医療連携をより一層強固にすることにあります。具体的には「当院の持つ診療情報を診療所を主体とした医療連携機関と共有すること」と「紹介状のやりとり等互いの連携機能の強化」です。当院とのデータの授受はインターネットを介して行われますが、診療所側にはインターネットとつながっているコンピューターがあればコストもかからず簡単なセットアップで構築が可能です。運用の実際は患者さんの同意書と診療所側からの利用申請書を提出して頂くことで、該当患者のデータを限定された

期間、公開するという形で行います。データの内容は検体検査（採血など）結果、心電図、レントゲン写真（一般撮影、CT、MRI等及び画像レポートを含む）、薬剤の処方内容など通常必要と思われるものは網羅しております。現在はまだまだ患者さん御本人がご自分のデータを運ぶ形で成り立っている地域の医療連携ですが、名古屋市医師会や地域の中核病院を中心に名古屋市全体を包括する医療情報を共有するシステム作りも活動が始まっています。個人情報の保護の壁はあるものの、いずれは医療情報はすべてオンライン化され、検査や処方の重複、薬剤の相互作用問題等も解決する時代が来ると期待しています。当院も平成25年3月より運用

を実施しており、不慣れであることが妨げとなつてか、まだ連携医療機関は少数ではあるものの徐々に拡充を図って行きたいと考えております。医療機関の方はご興味があれば当院病診連携室に御連絡下されれば担当がご説明致します。また患者さんは紹介先と当院の連携が強化されることで情報の遅滞のない共有が実現し、検査回数の減少などのメリットの他にご自分の詳細なデータがわかりつけの主治医に確実に、有意義に利用されることの恩恵は小さくないものと考えます。まだ運用開始間もなく、各部門とも手探りで進めている最中ではありますが、関係する方々に有意義なものとなるように鋭意努力して参りたいと思っております。

編  
集

二十四節季をご存知ですか？ 二十四節季とは、季節の変化と太陽暦のずれを調整するために、1太陽年を24等分に分けて設定したものです。「立春」や「秋分」など季節感を表した節季名が並びます。5月5日ごろは「立夏」と呼ばれ、いよいよ夏が始まる日。暦の上ではこの日から立秋の前日までが夏となり、初夏の日差しに新緑が輝く頃です。立夏に先立ち、八十八夜頃から夏の準備をはじめめる風習があります。爽やかな晴天の続くこのころは、衣替え、布団干し、カーテンなど大きな物を洗濯するのにも最適。梅雨を快適に過ごす暮らしの知恵でもあるわけです。はたして今年の夏はどうでしょうか？ 去年と同様に「ゲリラ豪雨」「猛暑」かもしれません。本格的な夏はまだまだ先ですが、ご準備のほう怠り無く。とはいえ、まずは薫風を感じに外出しませんか。 H・K

後  
記

## 名城病院診療等のご案内

ホームページはこちら <http://www.meijohosp.jp>

診療科目	内科・循環器科・小児科(小児循環器)
	外科・整形外科・心臓血管外科・脳神経外科
	皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科
	歯科口腔外科・神経内科

診察受付時間	[新患受付] 午前 8:30 ~ 11:30 まで
	[再来受付] 午前 8:00 ~ 11:30 まで

面会時間	[一般] 午後 0:30 ~ 8:00 まで
	[新生児] 午後 0:30 ~ 8:00 まで (授乳時間を除く)
	[ICU] 午後 0:30 ~ 4:30 まで
	(家族のみ) 午後 5:00 ~ 8:00 まで

※生花の病室への持込は、感染予防のためご遠慮願います。

診療案内	[休診日] 土曜日・日曜日・祝日 年末年始(12月29日~1月3日) 創立記念日(11月6日)
------	---

所在地	〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1 TEL (052) 201-5311 FAX (052) 201-5318
-----	---

お問合せは、  
・ 午後の診療等、詳しくは、医事課まで (内線 2132)  
・ 病診連携に関しては、病診連携室まで (内線 2151)  
医療機関の方へ  
・ 医療福祉に関しては、医療福祉相談室まで (内線 5105)



名城病院は、病院機能評価の認定を受け、よりよい医療を提供できるよう努力しています。